

せんだい寸景

NO6 2004年12月

発行：じっかい電腦事務局

星霜いくたりか 評定河原球場

こよみでは冬とい
うのに暖かい日
がつづいた。訪れた
11月下旬、まだ広瀬
河畔のやなぎが青い
葉をつけ歩く人々も
軽装のままだ。改めて
眺めた評定河原球場
の「可愛らしさ」に感
じ入った。両翼 92m
中堅 107m。この狭さ
にいまでは高校球児
もここではプレーし
ない。だからといって
往時ここで活躍した



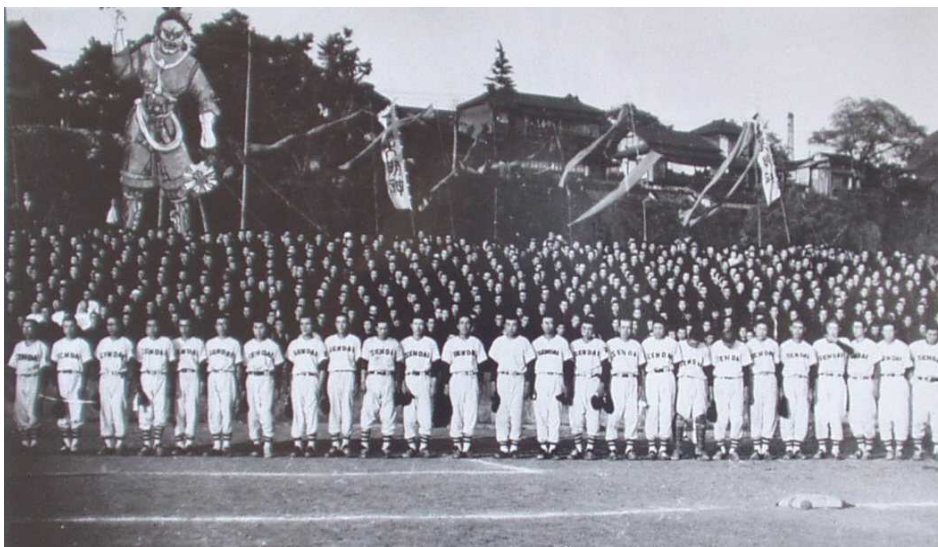
広瀬川・評定河原橋と青葉山

球児たちの力量を疑うものはいない。プロの川上が青田
が赤バット、青バットを振り我々とは同世代の早稲田実
業高時代の王貞治がここでホームランを飛ばした。スタ
ンドはいつも満員だった。宮城野原と交互に会場となっ
た一二高定期戦(野球)
昭和 33 年の舞台がこ
こだった。古い写真を
ごらんあれ、応援が異
常に燃えた年だった。
升沢満雄力作の大仁王
像も登場した。



あの年応援
団長は初
めて公選で決
まった。ご記憶
か？なぜそう
なったか知る
ひとは少な
かる。関係者に
尋ね記録した
メモがある。概
略を記す。それ
まで団長、幹部
は行動部(のち
に運動委員会

と改称)が指名した。古山、渡辺東洋と団長が続いた。
失礼ながら貫禄に欠けた。シマリがないーの。さて我
れらが出番となった。全校挙げて選べば文句あるまい。
で、公選となった。樋口龍雄(学級推薦)三原征郎(運動委



評定河原球場の背後はマンションが立ち
並び、使用料は午後5時から四十七
百円、じっかい野球開催はもう無理か

長・同会推薦)亀義和(会計委員長・自薦)候補 3 人の争
いの結末は意外なもので名前のなかった国分裕で決ま
った。なんで？じつは投票迫るある日候補者 3 名が「お
い、どうする」「争うのもなんだな」なぞと談合してい
た。そこに通りかかった国分が「イヨッがんばれよ」と
声をかけた。顔を見合わせた候補の 3 人「おう、おう、
おめがいい！」3 人が副団長になり「国分を支える、い
いべ、やれや」この提案にしぶっていた国分がやがて「う
ん」改めての団長選告示は国分ひとりに絞られ無投票と
なった。幹部も自薦でそれまでない多彩な顔ぶれとなっ
た。一高一丸の応援が実現した。

評 定河原は藩政時代広瀬川一番の広河原で球場あた
りを川の流れが急カーブし南流していた。明治に
入り仙台市長をつとめた早川智寛が牧場を経営、この河
原で牛を放牧した。その河原を埋め立て東北帝国大グラ
ウンドと姿を変えたのが昭和 8 年のことだ。このとき造

成地の西側に仙台市動物
園が造られた。同園が廃止
され日本住宅公団アパー
トとなり東北大の川内移
転にともない野球場は仙
台市に移管された。陸上競

技場だけが当
初そのまま残っ
ている。かたわ
らの橋は粗末
な木橋からコ
ンクリートの
大型橋に架け
かえられ大町
に向かって高
架橋が計画さ
れて付近の民
家はすでに立
ち退いた。崖上
の仙台家裁は

移転し跡地に 30 階のマンション建設が進行中だ。

浅野道夫内野手に打球が飛ぶと応援席から悲鳴が上
がり正面へのボールでさえ、捕れば大歓声があがった。
浅野は一高を出ると七十七銀行に就職、やがて交通事故
で死ぬ。わずか 22 年の生涯だった。